

平成 3 0 年度 第 3 回 学校運営協議会記録

	学校名	男鹿市立美里小学校
開催日時	平成 3 0 年 1 0 月 2 4 日 (水) 1 5 時 0 0 分 ~ 1 6 時 3 0 分	
協議内容 委員発言内容 等	<p><会長あいさつ></p> <p>C 委員：資料の中に市のコミュニティ・スクール情報交換会の資料があるが、テーマとしては「コミュニティ・スクールの周知」についてであった。今の取組をどうやってPRするかについてグループに分かれて話し合った。話し合いの中では、地域が学校に集まって何かやるような話題が多かったが、私はコミュニティについては一方通行ではだめだと思っている。学校も地域に出て行かなければ成り立っていかないのではないかと話してきた。</p> <p>コミュニティ・スクールの周知については、委員の皆さんからも機会あるごとに内容等について話していただければ地域の方にも分かってもらえると思う。美里小は地域に出て行って活動していることが多く、いいことだと感じている。今日の協議会では、活発な意見を出していただき、内容のある会にしていきたいのでよろしくお願いしたい。</p> <p><市情報交換会から></p> <p>校長：教育委員会としては、男鹿市の広報でもページを割いてコミュニティ・スクールのPR活動を行っている。会長からもお話はあったが、委員の皆様は、地域の諸団体の長になっている方が多いので、諸団体を通して広げていただければと思っている。</p> <p>子どもたちに集会を通してコミュニティ・スクールの言葉を知っているかどうかを聞いてみたところ、ほとんどの子どもたちは知らないようであった。コミュニティ・スクールの恩恵を受けている子どもたちでさえも知らない言葉であるが、私としては言葉を周知するよりも、コミュニティ・スクールとしてのお互いの関わり方を充実させていければと思っ</p> <p>ている。実際に言葉は知らなくても、学校に関わってくださっている方はたくさんいる。子どもやお年寄りに難しい言葉を覚えていただくよりも、後で、これはコミュニティ・スクールだったんだと思っただけでもいいのではないかと思っ</p> <p>ている。先ほど会長が、双方向のコミュニティ・スクールについて話をなされたが、学校もできるだけ、子どもたちを地域へ出して学ぶようにさせている。先日も学校の近くにあるお寺に歩いて行って、道徳に関する授業をやらせてもらっている。</p> <p>学校のホームページにはこの協議会の記録を詳しく載せたり、地域と一緒にやった行事をできるだけ紹介し、コミュニティ・スクールとしての取組を知っていただけるようにしている。</p> <p>F 委員：地域に配付する校報を読みやすいように大きくしている学校もあった。ホームページについては、更新ができる先生がいない学校はうまく進んでいないようだが、美里小はよく更新されていて、仕事柄子どもが寝た後に帰ることも多いので、ホームページを見て学校であったことを知ることも多い。また、コミュニティ・スクールについて周知をすることは大切なことなのだが、参加してみないと分からない場合も多い。PTA活動もまず会長自身が楽しむことを考えてやることが大切で、楽しんでいることを見ていると周りでやってみようと思う人も出てくる。学校行事でもPTA役員</p>	

しみながら、参加者を増やしていければと思っている。
C委員：各学校で校報を発行し、全戸配付している。美里小も男鹿市の広報に折り込んでいるが、校報の中身として、地域の人が出てくる場面があれば、読む人がもっと増え、地域の話になるのではないか。

教 頭：男鹿市の広報のコミュニティ・スクールのページに美里小が載っている。今回は、宮沢海岸に出かけて行ってクリーンアップ活動を行っている内容にした。地域に出かけている活動をPRしている。

<全国学力・学習状況調査について>

校 長：今年度の結果について、学校の現状や問題の傾向について理解していただきたく、資料を準備した。この調査は6年生だけであり、平均点をだけに注目しても、個々としてはあまり意味がないが、学校の現状として傾向を知ることができると思う。学校運営については、私が日頃感じている回答結果であるが、地域の人材・施設活用についてはあまりよい結果になっていない。その理由として、学校に登録しているボランティア等の地域人材はたくさんいるが、振り返ってみると上手く活用できていない。もっと教育活動に関われる機会をつくっていかねばならないと思って回答した。理科については、地域に素晴らしい素材がたくさんあり恵まれていると思っている。児童生徒の回答では、児童質問紙の結果ではあるが、学力調査の平均点と同じ様な傾向が見られる。学習習慣については良く、学校での学習や家庭学習については、子どもたち自身も頑張っていると感じているようだ。また、自尊感情も高い傾向にある。おそらく、ご家庭や地域の方々から褒められたり認められたりする場面が多いからだと思う。さらに、地域・社会への関心も高い。コミュニティ・スクールで地域からお世話になっていることを子どもたちは確かに感じているようだ。

4月に行われる全国学力・学習状況調査の問題については、毎年新聞等で公開されているが、じっくり見ていない方もいると思うので、問題の一部を資料にしてみた。国語Bや算数Bの問題を見ていただければ、普通の授業や家庭学習ではやれない問題が多い。とくに、問題文が長く、算数でも文章を読み進めなければ解けないようになっている。先生方も保護者もこの傾向を理解して、子どもたちに学習させていく必要があると感じている。

B委員：こういった傾向の問題が高校入試や大学入試にも出てきている。

D委員：これを見ると、算数でも国語の読み取りができないと問題が解けないのではないか。

F委員：自分の子どもは、6年生は何かあっても家庭学習はしっかりやっている。2年生は、何でやらなければならないのかとか言ったりする。6年生は、周りの子どもを見てもしっかりやられているようだ。

地域との関わりについては、学校でしっかり取り組まれているようだが、町内会にいくと、行事に子どもがあまり参加できていない。スポ少や用事があって忙しいのかもしれないが参加者は少ない。

E委員：孫は学校と家の生活が違いすぎる。家での生活習慣はあまりよくない。

教 頭：学校では、昨年度は国語を研究教科として取り組んできた。今年度は道徳だが、話し合いはとてもうまくいっている。家庭学習ノート展も行い、紹介しながら頑張らせている。

<「いのちの教育あったかエリア事業」について>

校 長：これまでの取組と今後の予定についてまとめてみたが、美里地区の人が関わったものや外部指導者が関わったものなど合

協議内容
委員発言内容
等

わせるとかなりの人に関わっていただいている。今年度は、大きな活動として、美里農園でサツマイモを育てて、男鹿水族館G A Oの豪太くんにプレゼントするという目的をもって取り組むことができた。予算がついているからこそできる行事でもあるので、子どもたちに楽しい思い出を残したい。また、道徳が教科になり教科書が使われているが、地域と一体となった道徳教育になるように、地域の方によるゲスト・ティーチャーをお願いしている。この委員の中からもゲスト・ティーチャーをお願いしている。最終的には、今年度の取組の成果をまとめたリーフレットを全戸配付して、地域に周知し、今後も地域をあげて道徳教育が行えるようにしていきたい。

小・中合同あいさつ運動では標語を募集して、のぼりを作った。中学生が美里小に来て、あいさつ運動を行っている。標語をみると、子どもたちは地域や思いやりを意識したものを考えている。11月の「美里っ子フェスティバル」では、保護者や地域の方にのぼりを見ていただけるようにしたいと考えている。

水族館と連携した取組を行い11月には、シロクマの豪太くんにサツマイモを届ける計画をしている。全校児童が大型バスで行くことにしている。

拡大連絡協議会の組織づくり及び運営について、中学校と連携した推進体制づくりをすることになっている。CS会長、副会長にも参加していただく会となっているので、よろしくお願ひしたい。

E 委員：あいさつののぼりは目にふれるところであれば、保護者や地域の方も刺激される。標語の内容もいい。

C 委員：のぼりは、地域の人が見てくれれば、あいさつの輪が広がっていくのではないか。あいさつは、子どもからお年寄りまで必要なことで大事なことである。地域でのあいさつ運動に取り組んだときもあったので、あいさつの取組を進めていけばコミュニティの架け橋になる。お互いに心が動いて理解し合えるようになると思う。

D 委員：美里小の子どもたちのあいさつはいいと思っている。こちらが気が付かないでいても、子どもの方からあいさつしてくる。

E 委員：春と秋に小・中合同のあいさつ運動がやられているようでいいことだと思う。

F 委員：男鹿水族館の方と会う機会があったが、美里小が地域と関わりながら、サツマイモをプレゼントするのは、いい取組だというお話をしていた。

E 委員：サツマイモは動物園というイメージがあったが、シロクマも食べることを知った。

<意見交換>

A 委員：私の家でも梨を作っているが、子どもたちが梨の収穫体験で授粉・摘果・袋かけ・収穫までの最後まで工程を全てやっているのはとてもよいと思う。サツマイモも苗から育て、最後にどうするかを考えているので感心している。

D 委員：1年間の取組をみたらびっしりで大変だと思った。学校でよくこなしていると思うが、道徳的な経験は子どもたちにとって、とても大事だと思う。

E 委員：潟西中学校でやった「命の授業」講演会は、保護者にも聞かせたい話だった。子どもと保護者が共通の話を聞くことも大事にしていきたい。